

見守り・告知ネットワーク「サイボード」  
(青森県佐井村)

〔概要〕

「情報格差を克服した安心安全な発展できる村づくりを目指して」をテーマとし、地域間及び世代間での情報技術スキルと利用環境格差からくる情報享受の不平等状態をなくし、全村民がICT技術の恩恵を受けることができる仕組みづくりと、ICT利活用による安心安全な生活環境を整える仕組みづくりを目的とする取組み。

〔コラム〕

簡単な操作で利用できる情報端末を全世帯に配置し、世代間・世帯間格差を補完したシステムとネットワークを構築しました。高齢者の安否確認、行政情報の配信のほか年金や子育てなどさまざまな分野の相談受付にも活用しています。

システムの機能として

① 告知・情報提供機能

役場及び公共的団体からのイベントやお知らせの情報が表示される機能。この機能によりこれまでパソコンや携帯電話を活用できなかった住民に対してもリアルタイムな地域の情報を配信することを可能にしました。

② 安否確認機能

関連団体から高齢者見守り対象者に安否確認を行う機能。この機能により毎日呼びかけを行い、見守り対象者に安心感を持たせています。

③ 相談・問合せ要求通知機能

役場関係課に相談等がある場合に、メールで相談をする機能。この機能により役場へ問合せするのが苦手な人などが気楽に相談できるようになりました。

④ メール受信機能

役場やあらかじめ認証・登録された第三者からのメールを受信でき、メールに添付された写真などの画像をアルバム管理できる機能（フォトフレーム機能）。この機能により遠方にいる親せきや子ども、孫などのメールにより送られた写真を受信し表示できるようになり、電子メール受信及び画像データの簡便な利用手段を提供しました。

今後の展開として

システム導入により健康診断の一次申し込みや、相談・訪問依頼のような福祉行政に関する利用や、簡易的なアンケート収集等、即自的且つ低コストの情報収集に利用することを計画しており、その効果が大きいと期待されています。

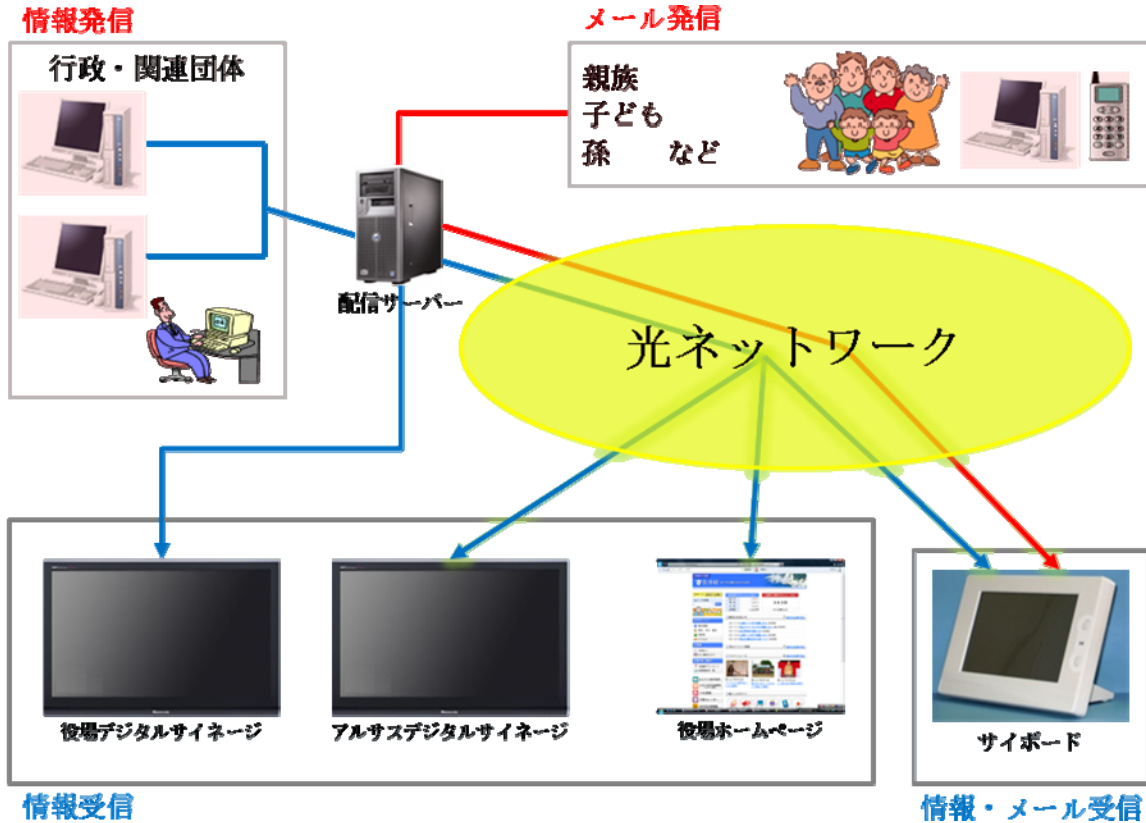
また、ICT利活用の新たな地域コミュニケーションツールとして、本システムの役割は大きいものがありますが、システムの簡便なコミュニケーションツールと新たな配信コンテンツの創出は同時に、合理的な利用方法と運用体制の確立が求められています。そのため、サービス提供団体の体制維持の継続等の課題が見えてきています。

結果的には「人」が動いてサービス提供が行われるため、情報や要望だけが錯綜し、対応しきれなくなる恐れを考慮する必要があります。システムとして「新たなコンテ

ンツや情報提供」を追加し得ることと、実際に人が動いてサービス提供できることのバランスを取っていくことが今後の検討課題となっています。

〔事業費〕 67,333千円（地域情報通信技術利活用推進交付金事業を活用）

### 【システム概念図】



### 【機器名及び機器の概要】

- 製品名：S I I T（シート）  
（Small Image Information Terminal）  
愛称：サイボード  
（佐井村の案内板という意味）  
概要：簡単な操作で利用できるタッチパネル付  
小型画像情報端末機  
（7インチ型、無線LAN機能内蔵）



（システムプロデューサー）

青森公立大学地域研究センター長 香取 薫

（問い合わせ先）

佐井村役場 総務課総務・情報部門

TEL 0175-38-2111

Eメール si-system@sai.e-shimokita.jp